

(1)研究概要

1

(1)研究の概要

授業内容の検討

- ①授業内容決定の流れ
- ②授業対象の決定
- ③本校生徒の実態に即した授業内容

2

(1)研究の概要

授業内容の検討

①授業内容決定の流れ

例年、1年生に対し、養護教諭による「性教育」の保健指導を行っていた。

●保健指導を行う中で、恥ずかしさがあり、性教育について消極的な印象であった。もっと工夫した内容で自分毎と捉えてもらう必要がある。



3

(1)研究の概要

授業内容の検討

②授業対象の決定

- a. 養護教諭による「性教育」は1年生対象である。
- b. 「家族計画と人工妊娠中絶」は2年生の単元である。

保健体育教諭にご協力いただき、
チームティーチングでの授業を行うことに決定

4

(1)研究の概要

授業内容の検討

③本校の実態に適した授業内容

- 性教育のディスカッション
→普段、他教科でも行っているような少人数グループワークを取り入れることにより、性教育について話すことは自然であり恥ずかしことではないと感じてほしい。
- 恥ずかしさの払拭→事前アンケート実施により、自分毎としてとらえる。
- 性に対してのマイナスイメージを払拭するような授業を意識

5

(2)授業実践

単元名「生涯を通じる健康」ア生涯の各段階における健康(イ結婚生活と健康「家族計画と人工妊娠中絶」)

※この単元を2時間確保

6

(2)授業実践

【1時間目】

家族計画について活発なディスカッションを
するために、避妊法や人工妊娠中絶、避妊
法についての知識を学んでほしいと考えた。

7

(2)授業実践

【1時間目】 ワークシート

保健ワークシート

家族計画と人工妊娠中絶

令和4年 月 日

年 組 番氏名

(1) 家族計画の意義と避妊法

① 家族計画とは

「自分のライフプランに合わせて、子どもの人数や出産する時期、間隔を考えること」

② 子どもを産み育てる際に、どんな問題（困難）があると思いますか

memo

- ・（ ）の問題
- ・（ ）の問題
- ・（ ）の問題

③ 避妊法とその選択 ※妊娠を望まない場合は、きちんと（ ）することが必要である。

・コンドーム：（ ）を防ぐ唯一の避妊法である
・ピル：（ ）による健康問題が起こることもある。

（ ）かつ（ ）であるとともに、お互いにとって必要な条件を満たすことが大切である。

パートナーとよく話し合い、それぞれの考えを尊重しながら協力することが大切

(2) 人工妊娠中絶

① 人工妊娠中絶

母体保護法（第3章第14条）

一、妊娠の継続または分娩が（ ）的、（ ）的理由により母体の健康を著しく
害するおそれのあるもの

二、暴行若しくは脅迫によって又は抵抗若しくは拒絶することができない間に（ ）さ
れて妊娠したもの

☆中絶できる時期：妊娠満（ ）週末満

② 不妊治療

・（ ） ・（ ） ・（ ）

《感想》

8

(2)授業実践

子育てするということは？

子どもがほしい

仕事の問題 経済的問題 休養の問題

「収入は大丈夫？」
「高学歴は大学まで？」
「専業主婦は大丈夫？」
「結婚する、別れる、変えるなどをパートナーと考える」

「小学校～大学の教育費は100万円以上かかるといわれる」
「基本、赤ちゃんが産まれるまでは休む」
「家賃の分、自由な時間を作り出す工夫」

【体の状態を把握する】
産婦人科で基礎体温の検査や排卵日のチェックなど受けられる

【出産準備】
「本人の意思、責任はあるか」「育てる覚悟はあるか」

不妊治療について

《不妊原因を探る》 基本検査 → 精密検査

《治療を開始する》 精密検査の結果に応じて相談の上、治療を行う

タイミング法

保険適用
・1回数万円
・医師の指導で排卵日前後に性交をする

人工授精

保険適用外
・1回1～2万円
・精子を人工的に子宮へ注入する

体外受精

保険適用外
・1回20万～60万円
・卵を採取し出し、精子と精子を受精させる

子作りを始めて半年経っても妊娠しない

避妊法とその選択

	コンドーム	OC/ピル	IUS	リズム法
内容	精子の体内への放出を防ぐ方法	OC/ピル(定容量経口避妊薬)は女性ホルモンを含んだ薬剤。正しく服用することで効果の高い避妊ができる。	IUS(子宮内システム)は子宮の中に入れる小さな器具で、黄体ホルモンを放出するタイプ。一度の挿入で最長5年間、効果の高い避妊が出来る。	基礎体温を測定することにより、排卵期を知り、避妊の目安にする方法
メリット	・性感染症が予防できる ・手軽に入手できる	・女性主体で避妊できる ・月経周期が規則的になる ・生理の量が減り、生理痛が軽くなる	・女性主体で避妊できる ・生理の量が減り、生理痛が軽くなる ・薬の飲み忘れが少しい	・副作用がない ・自分の月経周期を把握できる
デメリット	・装着ミス、ズレ、破損などによる失敗率が高い	・医師による処方が必要 ・毎日服用する必要がある ・副作用が現れることもある	・挿入後数ヶ月間は生理以外の出血が続くことがあるが、時間とともに目立たなくなる ・医師による装着、除去が必要	・毎朝きちんと体温を測定する必要がある ・発熱、過労、ストレスなどで基礎体温が変動し、排卵期がズレていく可能性がある
方糖	薬局、コンビニなどで購入できる	医師に処方してもらい、薬局で購入する	医師処方のもと挿入してもらう	個人体温計があれば、特に必要ない

安全かつ確実であるとともに、お互いにとって必要な条件を満たすことが大切である。

出産までの流れ

(人工妊娠中絶可能時期)



(2)授業実践

【2時間目】

導入

- ①前時の復習を行った。
- ②本時の課題を提示した。

展開

- ③事前に実施したクラス全員対象のグーグルクラスルームでのアンケート結果(質問1, 2)を見ながらそれぞれの考えを深めた。
- ④将来、希望通りに子どもを持つためにできることを考える。
- ⑤アンケート結果(質問3)を見ながら人工妊娠中絶について考えを深めた。
- ⑥本時の課題に対しての自分の考えをワークシートに記入する。

保健ワークシート

家族計画と人工妊娠中絶②

令和4年 月 日

年 組 番氏名

(2)授業実践

【2時間目】

ワークシート

考えてみよう！

1、希望通りの子どもを持つためには、どのような工夫や努力をしたら良いと思いますか

2、このグラフからどのようなことが考えられますか

②5階級別中絶選択率（厚生労働省2017年調査）

年齢階級	選択率 (%)
20歳未満	34
20～24歳未満	33
25～29歳未満	12
30～34歳未満	8
35～39歳未満	12
40～44歳未満	32
45～49歳未満	48
50歳以上	39

本時の課題「充実したライフプランにするため、自分に出来ることを考える」

《学んだことを踏まえ、課題に対しての自分の考えや感想を記入しましょう》

(2)授業実践

導入

展開

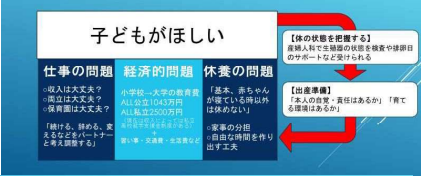
まとめ

①前回の復習を行い、本時の課題への土台となる知識の確認を行った。

②本時の課題「充実したライフプランにするため、自分にできることを考える」を提示し、生徒が追求したくない、興味を持たせる。

(2) 授業実践

子育てするということは？



不妊治療について

《不妊原因を探る》
基本検査 → 精密検査

《治療を開始する》
精密検査の結果に応じて相談の上、治療を行う

保険適用	保険適用外	保険適用外
・1回数千円 ・医師の指導で健康診断後に行為をする	・1回1～2万円 ・精子を人工的に子宮へ注入する	・1回20万～60万円 ・卵を取り出し、体外受精の中で精子と受精させる

避妊法とその選択

	コンドーム	OCピル	IUS	リズム法
内服	 婦子の陰道内への放置 使用の方法	 OCピル（定常経期経薬）を毎日決まった時間に必ず含んだ錠剤を、正確に服用すること。効果的且つ簡単である。	 IUS（子宮内システム）は子宮の腔内に挿入される器具で、黄体化ホルモンを放出するタイプ、一度の挿入で長期間（通常5年）の避妊が可能。	 基礎体温を測定することにより、排卵期を割り、避妊の日数にする方法
メ リ ト	・性感染症が予防 できる ・妊娠による合併症を 予防できる	・女性性行為で避妊できる ・月経痛が軽減される ・性感染症のリスクが低い	・女性性行為で避妊できる ・性行為の痛み、生理痛が 軽減される	・副作用がない ・自分の経期を把握できる
デ メ リ ト	・妊娠しない、失敗 取がある	・妊娠のリスクがかなり 低い ・毎日服用する必要がある ・副作用が起こることもある	・挿入後1ヶ月間は月経が ない ・月経が来た場合、除菌 が必要となる	・妊娠率が一定体温を測定する 必要がある ・発熱、頭痛、吐き、下痢など 体調不良の症状、排卵がつかず 起こる場合がある
方 難 簡	医師に処方して貰い、重 要で購入する	医師に処方して貰い、重 要で購入する	医師に処方して貰い、重 要で購入する	婦人体温計があれば、特に必要 はない

安全かつ確実であるとともに、お互いにとって
必要な条件を満たすことが大切である。

出産までの流れ	妊娠		中絶について	
	1ヶ月	2〜3週目		最後にきた生理の初日

出産までの流れ
(人工妊娠中絶可能時期)

2ヶ月	4週目	5週目	6週目
	まだ妊娠と確定できない時期	〈目覚〉次の生理予定日	妊娠判定断はここからできるようになる ※4週から検査ができる薬もあるが、やや値段は高め



事業計画の中期目標の承認書が必要で、期日が来ず

(2) 授業実践

導入 展開 まとめ

まとめ



- ①前回の復習を行い、本時の課題への土台となる知識の確認を行った。
- ②本時の課題「充実したライフプランにするため、自分にできることを考える」を提示し、生徒が追求したくなり、興味を持たせる。

(2)授業実践

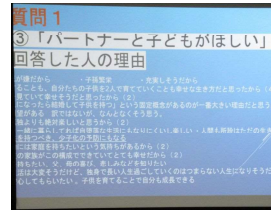
【2時間目】

導入

- ①前時の復習を行った。
- ②本時の課題を提示した。

展開

- ③事前に実施したクラス全員対象のグーグルクラスルームでのアンケート結果(質問1, 2)を見ながらそれぞれの考えを深めた。
- ④将来、希望通りに子どもを持つためにできることを考える。
- ⑤アンケート結果(質問3)を見ながら人工妊娠中絶について考えを深めた。
- ⑥本時の課題に対しての自分の考えをワークシートに記入する。



(2)授業実践

導入

展開

まとめ

- ③事前に実施したクラス全員対象のグーグルクラスルームでのアンケート結果を見ながらそれぞれの考えを深めた。

《質問1》

「あなたは将来、パートナーや子どもを持ちたいですか」

(2)授業実践

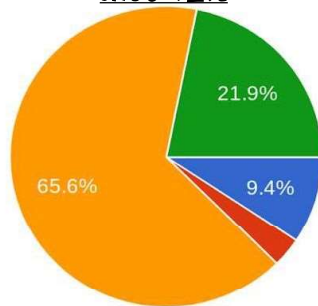
導入

展開

まとめ

《質問1》「あなたは将来、パートナーや子どもを持ちたいですか」

みんなの答え



- 一人が良い
- パートナーがほしい
- パートナーと子どもの両方
- 分からない

17

①「一人が良い」と回答した人の理由

②「パートナーがほしい」と回答した人の理由

③「パートナーと子どもがほしい」と回答した人の理由

18

(2)授業実践

導入

展開

まとめ

③事前に実施したクラス全員対象のグーグルクラスルームでのアンケート結果を見ながらそれぞれの考えを深めた。

《質問2》

「あなたは将来、子どもを持つとしたら何人ほしいですか」

19

(2)授業実践

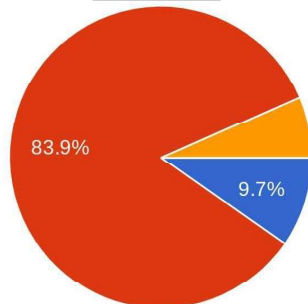
導入

展開

まとめ

《質問2》「あなたは将来、子どもを持つとしたら何人ほしいですか」

みんなの答え



- 1人
- 2人
- 3人
- 4人以上

20

(2)授業実践

導入

展開

まとめ

《インターネットサイト調査結果を見る》

★ほしかった子どもの人数より、実際に授かった人数は少ない人が多かった。

★希望通りの子どもを授かった人数ではない理由

1位:経済的理由 2位:理由はない 3位:体力的問題

4位:仕事・育児支援の問題 5位:家庭環境の問題 6位:年齢の問題

21

(2)授業実践

導入

展開

まとめ

《子どもが受けられる助成制度一覧》を見る

★児童手当 ★子ども医療費助成制度 ★就学支援制度

★予防接種 ★幼児・保育無償化 ★子育てパスポート

★高等学校等就学支援金制度 ★高校生等奨学給付金

★家計急変への支援 ★高等教育の修学支援新制度

★奨学金 など

22

(2) 授業実践

導入

展開

《インターネットサイト調査結果を見る》

★ほしかった子どもの人数より、実際に授かった人数は少ない人が多かった。

★希望通いの子どもを授かった人数ではない理由

1位：經濟的理由

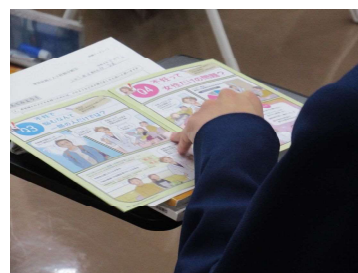
2位:理由はない

3位:体力的問題

4位:仕事・育児支援の問題

5位:家庭環境の問題

6位:年齢の問題



(2) 授業実践



(2)授業実践

導入

展開

まとめ

【2時間目】

導入:①前時の復習を行った。

②本時の課題を提示した。

展開:③事前に実施したクラス全員対象のグーグルクラスルームでのアンケート結果(質問1, 2)を見ながらそれぞれの考えを深めた。

④将来、希望通りに子どもを持つためにできることを考える。

⑤アンケート結果(質問3)を見ながら人工妊娠中絶について考えを深めた。

⑥本時の課題に対しての自分の考えをワークシートに記入する。

25

(2)授業実践

導入

展開

まとめ

④『考えてみよう!』

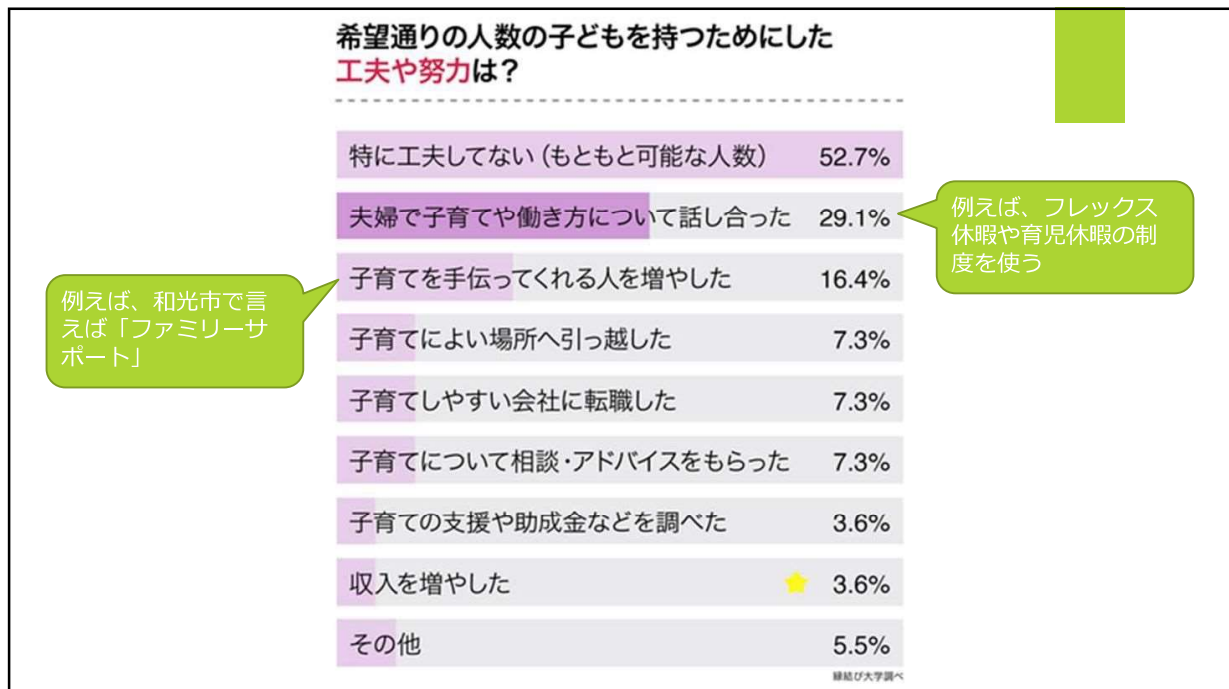
「将来、希望通りの人数の子どもを持つためには、どのような工夫や努力をしたら良いと思いますか」

※グループで話し合う ※ワークシートに記入 ※発表する

「将来、希望通りの人数の子どもを持つためには、どのような工夫や努力をしたら良いと思いますか」

【生徒の回答】

26



27

(2) 授業実践

導入 → 展開 → まとめ

【2時間目】

導入: ①前時の復習を行った。
②本時の課題を提示した。

展開: ③事前に実施したクラス全員対象のGoogleクラスルームでのアンケート結果(質問1, 2)を見ながらそれぞれの考えを深めた。
④将来、希望通りに子どもを持つためにできることを考える。
⑤アンケート結果(質問3)を見ながら人工妊娠中絶について考えを深めた。
⑥本時の課題に対しての自分の考えをワークシートに記入する。

28

(2)授業実践

導入

展開

まとめ

⑤アンケート結果(質問3)を見ながら人工妊娠中絶について考えを深めた。

《質問3》

「人工妊娠中絶の最も多い年齢は何歳くらいだと思いますか」

29

(2)授業実践

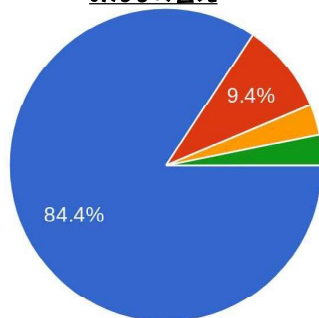
導入

展開

まとめ

《質問3》「人工妊娠中絶の最も多い年齢は何歳くらいだと思いますか」

みんなの答え



- 20歳未満
- 20歳～24歳
- 25歳～29歳
- 30歳～34歳

30

(2)授業実践

導入

展開

まとめ

《厚生労働省の人口動向調査結果を見る》

①5階級年齢別中絶実施率（厚生労働省2017年調査）



20～24の人工妊娠中絶が最も多い（厚生労働省調査）

★アンケート結果では、生徒の8割以上が最も中絶が多いのは20歳未満と予想していたが、実際の調査結果では、20歳～24歳が最も多かった。

31

(2)授業実践

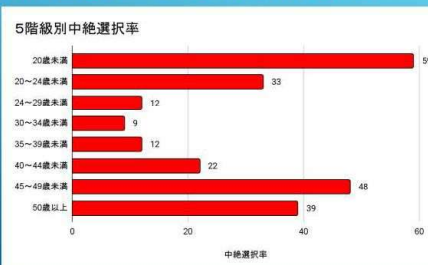
導入

展開

まとめ

《厚生労働省の人口動向調査結果を見る》

②5階級別中絶選択率（厚生労働省2017年調査）



★5階級別中絶選択率としての調査結果は、中絶を選択した割合が最も多かったのは20歳未満だった。

32

(2)授業実践

導入

展開

まとめ

『考えてみよう！』

「このグラフからどんなことが考えられますか」

※ワークシートに記入

※発表する

33

(2)授業実践

導入

展開

まとめ

【2時間目】

導 入: ①前時の復習を行った。

②本時の課題を提示した。

展 開: ③事前に実施したクラス全員対象のゲークラスルームでの
アンケート結果(質問1, 2)を見ながらそれぞれの考えを深めた。

④将来、希望通りに子どもを持つためにできることを考える。

⑤アンケート結果(質問3)を見ながら人工妊娠中絶について考えを深めた。

まとめ: ⑥本時の課題に対しての自分の考えをワークシートに記入する。

34

(2)授業実践

導入

展開

まとめ

⑥本時の課題「**充実したライフプランにするため、自分にできることを考える**」に対しての自分の考えをワークシートに記入する。

※それぞれワークシートに記入。

※隣の人に記入した内容を伝える。

※数人に発表してもらう。

35

(2)授業実践

導入

展開

まとめ

本時の課題「**充実したライフプランにするため、自分にできることを考える**」

Aさん（男子） Bさん（男子）

Cさん（女子） Dさん（女子）

Eさん（男子） Fさん（男子）

36

(2)授業実践

導入

展開

まとめ

【教師の思いを伝える】

★教科担任より

★養護教諭より

37

(3)授業参加者からの感想

38

(3)授業参加者からの感想

【良い点】

G先生

H先生

I先生

【改善すべき点】

J先生

K先生

39

(4)成果・課題・感想

40

(4)成果・課題・感想

成 果	課 題
○事前にアンケートを実施することで、友達の考えを知ることが出来、恥ずかしさを和らげることが出来た。 ○人工妊娠中絶、避妊法、不妊治療の知識を身につけた上、グループワークをすることで、家族計画の思考を深めることが出来た。 ○保健学習に養護教諭がT、Tに入ることで、専門的な知識に加え、保健室の事例を話すことで、より身近な学習に感じられた。	○性に関してのマイナスなイメージを払拭したかったが、どうしても性のリスクも伝えなければならぬため難しい。 ○授業参加者からのご意見にもあったように、国際高校の特徴を生かしたグローバルな内容を取り入れることが出来なかった。 ○保健体育教諭と養護教諭のT、Tを実施するにあたり、話し合いする時間が少なかった。

41

(4)成果・課題・感想

感 想

42